

おうちの
みんなで
読んでね

令和 迎春 三年

光り輝く未来の夢を見る
大切な人が笑顔で 天寿を全うするその日まで
幸せに暮らせるよう

決してそのいのちが
理不尽に脅かされることがないように 願う

たとえその時自分が
傍にいらなくても 生き抜いて欲しい

ただひたすら平和な
何の変哲もない日々が
いつまでもいつまでも 続きますように

生きていることはそれだけで奇跡

あなたは尊い人です
大切な人です

精一杯生きてください

(ジャンプコミックス「鬼滅の刃」23巻 / 吾峠呼世晴作より)



*アニメと映画化で社会現象ともなった漫画の舞台設定は大正時代。ほぼ100年前の大正7-9年にかけて世界を襲ったスペイン風邪では、日本でも45万人が犠牲になったと言われる。長く壮絶な戦いの物語が終結し、人を救い鬼を倒すため命を投げ出した多くの仲間と手負いの主人公らが、ラストではありふれた日常を楽しみ、脚光を浴びることもなく柔らかな笑顔で描写される。添えられた台詞は、遺された人への普遍的なメッセージのように沁みってくる。

私をほかにしてある
力というものに
帰っていく歩み
それが仏道

◆真宗大谷派・教学研究所所長も勤められた宮城師は「聞思」という姿勢を大事にされました。親鸞聖人の著書「撰取不捨の真言、超世稀有の正法、聞思して遅慮することなかれ」にあるとおり、仏法に自分のいのちの営みを聞き直し、思惟することです。

私たちは不思議な因縁によって生まれ、歳を重ねどこか病みながら臨終の一念を迎えます。しかしそのいのちの姿ありのままを受け入れられず、老病死を嫌って抵抗し、つい愚痴をこぼしてしまいがちです。それではいくら「命を大切にしましょう」と言葉にしても、私自身らが一番いのちを粗末にしていることになってしまいます。

生きていく今を認めないばかりか、自己中心的で身勝手な考えでいのちを見ている限り、今を生きていることの喜びも感謝も生まれず、苦惱し続けるしかありません。確かに今は自ら仕事をして生活しています。そのような力、体力・学力・知力・経済力・権力などは「生活力」であつても生きる力ではないでしょう。むしろそのことが私を傲慢にし正当化しご恩をわからない「いのち」にしていると思えます。

「娑婆の縁尽きて、ちからなくしてをはるときに、かの土へはまいるべきなり」(歎異抄第九条)とあるように、このいのちの行き先は浄土という悟りの世界を知らされ、愚痴のこぼれる生活の中にも安心(あんじん)が恵まれるよう、如来の慈悲と智慧が南無阿弥陀仏となつて私のうえに働いていることを聞思していきましょう。(引用「月々の言葉」)

お経は何のために唱えるの？ どんなお経をあげるの？

教えて、お坊さん ②⑤

確か昨年11月下旬、「チコちゃん」のTVでもこの問いが出てきた。この時には原始仏教・戒律研究者の佐々木閑先生(三国町・高田派寺院出身)が、「生きている人へのアドバイスのため」と答え、禅宗寺院で般若心経が解説されていた。

10月に発行されたご門主の著書「令和版 仏の教え」(幻冬舎)にも同じ質問があり、その説明として「お経はお釈迦様の教え」「真宗では一般的に言われる追善供養、死者の冥福を祈るためには唱えない」「仏の衆生救済の願いとその働きを讃える仏徳讃嘆であり、感謝の気持ちを表すもの」とし、読経は私の救いを実感することにつながる、と記される。



何か神仏の加護を受けるためのようなイメージがあるかもしれないが、上記のように、仏法に我が身を照らし、確かなる拠り所としていくこと。故人への思慕や後悔も含め、人生で味わう苦しみ・不安・迷いからできるだけ自由になりたいもの。

そこでは、お仏壇の前に座る、お寺の本堂でたたずむといった場の力も大きい。声を出す、仏事を営むという行為が、私たちの心身を癒し、清々しくさせてくれるだろう。

真宗の多くの仏事で読誦されるのは阿弥陀仏の救済を説く浄土三部経(他には宗祖の正信念仏偈など)。多くは漢文で分かりづらいが、現代文ではありがたみがないと言われる。仏間で姿勢を正し一定の発声をしていくこと自体に、この身を変える何か尊いものがある。

正信念仏偈：念仏の救いを伝えた七高僧とは？

親鸞聖人は念仏の教えを讃える正信念仏偈をつくった。120句の前半は阿弥陀如来の成り立ちや救いの働き、後半はインド中国日本で七人の高僧が念仏の教えをどう伝えてきたかを表す。

<歴史上主な流れ>

- ・ 釈尊 BC6-5 頃
- ・ 入滅約 100 年後 教団根本分裂
- ・ 部派仏教時代

- ・ アショーカ王の仏塔建立で全インドに仏教広まる

- ・ 紀元前後から大乘仏教運動、大乘經典多数成立

- ・ 仏教が中国へ流入
- ・ 經典の漢訳事業

- ・ 中期大乘仏教

- ・ 三蔵法師 鳩摩羅什、玄奘らが活躍
- ・ 後期大乘仏教 密教の誕生

- ・ 日本に仏教伝来
- ・ 聖徳太子の仏教保護、国策政策
- ・ 律令政治体制
- ・ 古事記日本書紀編纂
- ・ 東大寺大仏建立
- ・ 最澄 天台宗を開く
- ・ 空海 真言宗を開く
- ・ 武士の登場
- ・ 荘園の発達
- ・ 藤原氏摂関政治
- ・ 大寺院の勢力拡大

- ・ 源平の争乱
- ・ 鎌倉新仏教
- ・ 親鸞聖人 1172-1262

①第一祖：龍樹菩薩（ナーガルジュナ）：二世紀頃 南インド

「中論」「十住毘婆沙論」 大乘仏教・中観学派の祖、八宗（日本全ての仏教学派）の祖師。縁起、中道（空）の思想。仏の名を称える易行の法を示され、とりわけ阿弥陀仏の本願や往生の利益を説く。『釈迦如来楞伽山』より 12 句

②第二祖：天親（世親）菩薩（ヴァスバンドゥ）：五世紀頃 北天竺・ガンダーラ

「俱舍論」「唯識二十論」「浄土論（願生偈）」 千部の論師。釈尊の言行録から抽出し仏教思想体系を構築した。空思想をさらに進めた唯識学派。『無量寿経』に基づき往生浄土の行を大乘仏教の実践道とした。『天親菩薩造論説』より 12 句

③第三祖：曇鸞大師 / 476-542 年 中国・北魏 山西省

「浄土論註」 観經の浄土の教えを受け、修行して得た仙經（不老長寿の法）を焼き捨てて安楽浄土に帰依した。「信」と「他力」を強調し、衆生救済の道は阿弥陀の本願による。浄土教の大乘仏教的論理基盤を提示。『本師曇鸞梁天子』より 12 句

④第四祖：道綽禪師 / 562-645 年 中国・隋 山西省 大原

「安楽集」 実践的な民衆教化により多くの帰依者を生む。龍樹菩薩の易行道、世親菩薩の弥陀仏への帰依、曇鸞大師の他力の信心の教えを継承。「観經」の要義を示して末法到来時における浄土門の理論的基礎を築く。『道綽決聖道難証』より 8 句

⑤第五祖：善導大師 / 613-681 年 中国・隋～唐 山東省

「観經疏」「法事讃」「往生礼讃」「般舟讃」 道綽門下。古今の諸師の説をただし「観經」の仏意を明らかにした。曇鸞大師・道綽禪師の伝統と本意を示して、往生の因は称名念仏をもって正定業とした。『善導独明仏正意』より 8 句

⑥第六祖：源信和尚 / 945-1017 年 日本・平安中期 奈良～比叡山

「往生要集」 日本浄土教の祖。天台教学を究め、諸經論釈の中から往生極楽に関する要文を集めて撰述。六道輪廻の穢土を厭い離れ、弥陀の極楽浄土を欣求するために、称名念仏を実践する方法を述べる。『源信広開一代教』より 8 句

⑦第七祖：源空（法然）上人 / 1133-1212 年 日本・平安末期 岡山～京都

「選択本願念仏集」 浄土宗の開祖。知恵第一。善導大師『観經疏』により専修念仏に帰依。比叡山を下り身分や老若男女を選ばず浄土念仏の教えを弘める。親鸞ら門下とともに念仏停止の弾圧で流罪に処される。『本師源空明仏教』より 8 句

感染症・ウイルスとの付き合い方を考える その3

■世界を覆ったのはウイルスだけではありません。普段は隠蔽されていた不安がむき出しになって、感染拡大したのです。マスクを付けているだけでも、付けない人がひどく不見識・マナー違反に見えてしまう自分に驚きました。まさに二項対立のワナです。

仏教では、私たちはすぐこのワナにハマってしまうから気をつける、と言います。特に龍樹菩薩（七高僧第一祖）はこの問題に極限まで取り組みました。つまり私たちの脳は生理的なクセとして、敵味方、損得、善悪、好き嫌い、有用と無用、着マスクと非着マスクといったように認識するのが得意。ここに無自覚だと、苦しみや憎しみの連鎖が始まってしまふと仏教は説きます。この連鎖の方向を変えねばなりません。

日本赤十字社では、「感染症の三つの顔」として警告（図参照）。第一の感染症は病気、ウイルスの感染。第二の感染は不安と恐れ、第三の感染は嫌悪・差別・偏見だとしています。

仏教では龍樹菩薩が強調されたように、すべては縁起の法則によって連鎖していくとの見方に立ちます。苦悩・憎悪・偏見・差別に自分の足元がすぐわれないよう、慎重に丁寧に事態を受け止めていくのです。

感染の問題に関しては、専門家の意見も結構バラバラです。私たちは「結局どうしたらいいのか」と分かりやすい結論に飛びつくことなく、合理的な判断力と問題意識を持ち続ける態度こそ必要でしょう。二者択一のワナにハマると、容易に第二感染から第三感染へと移行してしまいます。感染発症や不安怖れは仕方ありませんが、差別・偏見への連鎖は避けることができます。それは、ウイルス感染自体よりもさらに怖いことなのです。

情報に振り回され、不安に染まり、つい他者を排除・攻撃してしまう、そんな我が身のニセモノ性を、仏法聴聞で明らかにしていくのです。

（「本願寺新報 令和三年正月号」相愛大学積徹宗先生の論考より抜粋、一部加筆）

*「ウイルスより人が恐怖だ」という声や、ある県の第一号感染者は結局自死されたと聞く。数ヶ月も休みなく楽しみもなく、使命感だけで激務を果たしている看護師さんもトイレで泣き、実家帰省では石を投げられ、各地で離職も出始めたの報道。なんともやるせない。

「命か経済か」とメディアでも取り上げられるが、経済とは本来中国古典の「経世済民」（世をおさめ、民をすくう）という意味。生命を長らえ生活を保つために経済（活動）を営み回してきたはずであれば、その中身をもう一度根本から吟味すべきではないか。

行事 今年 予定	<ul style="list-style-type: none">・お年頭：1月2日（土）終日・七日盆：8月7日（土）終日・報恩講：9月23日（祝木）昼3時、夜7時	<ul style="list-style-type: none">・永代経：3月20日（祝土）昼3時・本盆：8月15日（日）終日
-------------------------	---	--

東日本大震災 10 周年追悼法要 in 福井

2021.3.10（水）午後4時～ *ご参拝は随時、自由

曹洞宗 **通安寺**（福井市西木田 4-3-4） 問：TERRA ねっと福井（事務局 林）

速報!

老いることも 死ぬことも
人間という儂い
生き物の美しさだ
老いるからこそ
死ぬからこそ
堪らなく愛おしく尊いのだ



煉獄杏寿郎
「鬼滅の刃」第8巻より

◆闇の鬼と鬼殺隊剣士らの戦いを通じて描かれたのは、深みのある人間模様と「想いをつなぐ」こと。

映画後半、隊の幹部・煉獄杏寿郎が強敵の鬼との激闘中、お前が死ねばその技も失われてしまうぞ、鬼になってもっと俺と戦おうとしつこく勧誘されるも、きっぱりとはねつける時のセリフ。

老病死に怯え忌避してきた人間が、もろく有限な生にどう積極的な価値を見出すのか。仏法が説く「諸行無常」だからこそ、命の「尊厳」をどこかに求めたい。皆一度きりの人生、胸を張れと声がする。

死んだ生き物は
土に還るだけなんだよ
べそべそしたって
戻ってきやしねえんだ
どんなに惨めでも
恥ずかしくても
生きてかなきゃならねえんだぞ




嘴平伊之助
「鬼滅の刃」第8巻より

◆激闘の末、列車を救った実力者・煉獄杏寿郎が敗ける。主人公・炭治郎が絶叫とともに相手の猗窩座(あかざ)に投げつけた言葉は圧倒。胸に突き刺さる。

そして炭治郎ら若手剣士3人に後を託す、君たちを信じる、前を向いて生きろと励まし、己の役目を終えた煉獄。強敵が現れ続ける事態に弱音を吐く炭治郎に、同期の伊之助(猪突猛進な野生児)も自ら号泣しながらゲキを飛ばす場面が救いだ。

生まれついて多くの才に
恵まれた者はその力を
世のため人のために
使わねばなりません
弱き人を助けることは
強く生まれた者の責務です



煉獄獰火
「鬼滅の刃」第8巻より

◆杏寿郎が激闘中、お前は選ばれし強き者だと相手から言われた際の回想シーン。杏寿郎の母が病床で、子どもだった彼に、なぜ自分が人より強く生まれたのか分かりますか？と問うて語りかける。

曰く、天から賜りし力で人を傷つけること、私服を肥やすことは許されない。弱き人を助けることは、強く生まれた者が責任を持って果たすべき使命。決して忘れぬようにと彼を抱きしめる。

これは大人として、経済力や権力を有する人にこそ真っ直ぐ受け止めてほしい言葉ではないか。

考えれば、誰も皆それぞれ天から与えられた才能(天才)を持っている。利他の精神は何も仏教の専売特許ではなく、自分に恵まれたいのち、運命といったものをどう世の中に還元していくかは、時に自己中心的な私たちにとって生涯を通じた課題である。

二月抄

迎えにきたものたちは

そつと待っていてくれたのだろう

母のいのちが舞いはじめ

ぼくらのその静かな

母の舞台を仰ぎ見ていた

ゆるやかに時が流れていくのを

両の手で涙のように受け止めながら

ぼくらは沈黙したまま

いのちの舞に打たれていた

母のかすかな息づかいが聞こえ

舞果てのやすからな

旅の支度が整うと

迎えにきたものたちが

あたたかい雪を降らせた

世界がひとときわ明るくなって

その明るさの中に手を振る

短い母のいのちが見えた

追いつがるものたちとの間に

計り知れぬへだたりが生まれ

叫んでも叫んでも

音のない白い世界を逝った

母の命はもう既に見えない

あたたかい雪の
なお降りしきる二月



「時間の船に浮かぶ」
渡辺本爾著 '20.11
能登印刷出版部



「風流人の12ヶ月」
あらい正三著 '18.9
(株) エクシード

書籍紹介

*お同行の方二人から著書を謹呈いただきました。元福井市教育長・渡辺さんは四冊目の詩集、関西系最後の太鼓持ち・荒井さんも三冊目です（現在在庫はなく各自治体の図書館でどうぞ）。

二月 如月の大人遊び～3日は節分の鬼退治 から抜粋

2月に入りますと、京都の花街は節分ムードです。季節の別れる境目が節分なので、立春、立夏、立秋、立冬の前日が節分ですが、特に冬の陰から春の陽に変わる節分を重視した。

季節の変わり目からは、目に見えない「おぬ＝隠＝鬼」の邪気が生じると考えられていたために、悪霊を祓う行事「追儺」の行事が行われ、その一つが節分の豆まきです（豆は新芽が出る生命力と豆＝魔滅で魔除けの力）。（中略）

今では花街でしか見なくなりましたが「お化け」という、普段とは違う服装や格好も町内の人たちがしましたネ。鬼が本人と間違えるように変装して、節分の夜にうごめく鬼をやり過ごすのだそうです。

太鼓持ちとしてお茶屋に揚がる時は、私も「お化け」をして、女性ものの着物に付け襟を足して、襦袢だか女物の着物だか何だかわからないような着物で、昔は座敷に揚がってました。

お知らせ

■昨秋、拙寺総代さんの笠島正美さん（糺）が退き、新しく齊藤英毅さん（西番）に就任していただきました。

■昨春から宗教者有志で小規模葬について協議を重ね、2種類のリーフレットを作成・発信しました。同封をご参考の上、見やすいか伝わりやすいか、是非ご感想お聞かせください。仏事全般もお気軽に。

住職：林 暁 090-9765-1343

本年も宜しく
お願い申し上げます。

▼新型コロナウイルスによって、生活や仕事に過酷な状態に見舞われている皆様に心からお見舞い申し上げます。少しでも日々が平穏となりますように。
今年九一歳の前住職も昨年正月からベッド生活が定着。やつと杖で動く状態ながら頑固さは変わりません（苦笑）。（S）
▼今、心身の大掃除中です。（C）